

VOICE *Special Issue* #17

【ヴォイス】 / #17 / APRIL 2010 / www.oisix.com

子どもたちの笑顔につながる、いつもの食卓 TABLE FOR TWO



Oisix
おいしくす

VOICE / #17

FOODS [TABLE FOR TWO]



Oisixを通じてTABLE FOR TWOに参加する

～累計10万食の給食をアフリカへ～

Oisixは、TABLE FOR TWO認定商品の販売を通じて、お客様にヘルシーな生活をさせていただきながら手軽に無理なく社会貢献できる環境をつくっていきたくと考えております。
現在、TABLE FOR TWOのワッペンがついた認定商品は鮮魚や豆腐に納豆など、約30品目。
ヘルシーな食材を使った毎日の食卓が、開発途上国の子どもの生き生きとした笑顔につながります。

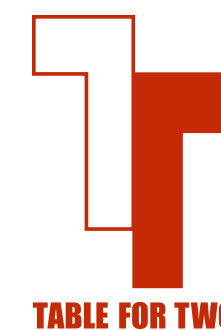


※ これまでにOisixを通じて寄付された給食数は108,146食になりました。(2010年2月現在)

※ TFT認定商品は売上の3%の寄付をおこないます。

※ ご協力頂いた分とメーカー・生産者様の協力分、Oisixの負担分をあわせて寄付をおこなってまいります。

ACTIVITY REPORT



日本中に広がる TABLE FOR TWO 活動

～参加団体は234団体(2010年2月末現在)～

TABLE FOR TWOは、世界的な食の不均衡を解決し、先進国と開発途上国の人々とともに健康にすることを目指して発足しました。
そのしくみは、先進国の私たちがヘルシーメニューを食べることで肥満や生活習慣病を解消し、その減らした栄養で開発途上国の子どもたちへ「給食」を届けるというものです。

この活動への参加方法は2種類あります。

- ① TFTに参加する団体の社員食堂で対象メニューを食べることで、その金額の一部を寄付する。
- ② TFT認定商品を購入することで、商品金額の一部を寄付する。

現在、伊藤忠商事株式会社、NEC、NHK、NTT、グーグル株式会社、毎日新聞社、横浜市、株式会社リクルート、早稲田大学(50音順)をはじめ、多種多様な企業、行政機関、大学マスコミがTABLE FOR TWOの理念に賛同し、活動しています。

voiceのバックナンバーはこちら <http://www.oisix.com/voice>

子どもたちの笑顔につながる、いつもの食卓



NPO法人 TABLE FOR TWO International
事務局長 小暮真久

1972年東京生まれ。経済学者ジェフリー・サックス氏との出会いに感銘を受け、2007年10月に「NPO法人 TABLE FOR TWO International」を創設。先進国の飽食と、開発途上国の飢餓を同時に解消する活動を、日本とアフリカを主な拠点として続けている。著書に「20円で世界をつなぐ仕事」がある。



地道な営業活動では、忍耐強く説明し、実績を重ねることで信頼を得ていきました。

TFT参加団体や、活動に共感してくれる人からの寄付も徐々に増えていく中、朝からピラミキをしてくれる人や、食堂で声が枯れるまでメニューを宣伝してくれる人も。

「たくさんの方が、想いをもって取り組んでくれたときの圧倒的なパワーを、私自身強く実感しています」

子どもたちから学ぶ心の豊かさ

「アフリカの子どもたちは、ふだん満腹に食べられていないのに私に食べ物を分けてくれようとする。私たちが給食をほごすだけでなく、私たちも彼らからの豊かさを学んでいるんです」

TFTの活動に少しでも関わってくれたすべての方、そしてなによりも支援を待つ子どもたちのため、小暮さんの活動は続きます。

TABLE FOR TWO



食と心の豊かさをわかち合う活動

食をすることが笑顔をつくる

子どもたちのほちれんばかりの笑顔がならぶ、東アフリカ、ウガンダの村。

「給食を食べておながいっばいになると、本当に目が輝き出します。食べることで、表情がまるで変わってくるんですよ」

これまでに250万食以上の給食を、支援する国々に提供してきた「TABLE FOR TWO」(以下TFT)の活動。小暮真久さんは「アフリカの国々を視察に訪れるたび、子どもたちの笑顔からエネルギーをもらい、同時に、まだまだできること、やらなくちゃいけないことがたくさんある」と感じると言います。

TFTは創設からわずか2年。今では数多くの企業や団体が活動に参加しています。小暮さんのそのバイタリテイの源は、子どもたちの笑顔と、強い使命感でした。

「想い」が生む圧倒的なパワー

昨今の社会問題。先進国では飽食ゆえの肥満や生活習慣病が問題となり、一方で世界には飢餓で命を落とす子どもたちがたくさんいます。

「TABLE FOR TWO」は、直訳すると「二人の食卓」。

先進国の私たちと開発途上国の子どもたちが、時間と空間を越え食事を分かち合うというコンセプトでスタートしましたが、「無名の団体が信頼を得る」ということは想像以上に困難の連続だった「そう。

「それでも日々の活動の中心」という